

教科名	国語	科目名	国語表現	2単位	対象	3学年（普通クラス文系）
-----	----	-----	------	-----	----	--------------

目標	1. 国語で適切に表現する能力を育成する。 2. 自分の立場や考えを伝える能力を高める。 3. 相手の考えを尊重し理解する態度を育成する。
----	---

学習のねらい	期	月	時数	学習内容
1. 情報を取捨選択し、整理・記録するための基本的な技術を身につける 2. スピーチを通して、目的や場面に応じて適切に表現する力を養う 3. 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てる 4. さまざまなことば遊びの体験をとおして、言語表現の多様な側面を理解し、またその楽しさを知る。 5. 自己分析をとおして自分を理解し、自己アピールを作成する。	1	4	① ③	オリエンテーション（年間計画説明） 教科書基礎編Ⅰ①「ことばに変える」 教科書基礎編Ⅰ②「声の表現」
	学	5	④	教科書基礎編Ⅰ③「漢字と語彙」 教科書基礎編Ⅰ⑥「文章表現の基礎」
	期	6	④ ④	教科書基礎編Ⅰ⑤「ことばを遊ぶ」
	24時間	7	④	教科書実践編Ⅱ⑪「面接—社会との接点」
1. 文章の「型」を各種のトレーニングをとおして習得し、論理的文章を書くための基礎力を養成する。 2. メディア・リテラシーについて理解し、情報解読の際の課題と情報発信者の責任について学習する。 3. 引用のルールやマナーについて理解し、注や参考文献の表記などの論文執筆時に必要な事項について習熟する。 4. 小論文作成を通して、論理的に表現する能力を養う	2	9	⑤	教科書実践編Ⅱ⑦「小論文Ⅰ」
	学	10	⑤	教科書総合編Ⅲ⑭「メディア・リテラシー」
	11		⑥ ⑥	教科書実践編Ⅱ⑧「小論文Ⅱ」 教科書実践編Ⅱ⑨「論文作成法」
	28時間	12	⑥	教科書実践編Ⅱ⑩「プレゼンテーションの方法」
1. 話し合いの目的に応じてなされている工夫を理解し、アイデアの出し方や原案の作り方を習得する。 2. 自己分析をとおして自分を理解し、自己アピールを作成する。 3. 人をひきつける情報発信の手法を学習する。 4. 自分史を作成する。	3	1	⑤	教科書実践編Ⅱ⑫「話し合いの方法」
	学	2	③	教科書実践編Ⅱ⑪「面接—社会との接点」
	18時間	3	⑤ ⑤	教科書総合編Ⅲ⑮「社会にはたらきかける表現」

評価の観点・方法	<p>知識偏重ではなく、表現部分に重きをおいて評価を行う。よって、筆記テストのみの評価に終わるのではなく、表現された作品を①資料収集、②作品内容、③発表等の観点から総合的に判断するものとする。</p>
----------	--

特色ある学習方法	<p>1 学期：表現された「ことば」を文字と音声の両面から捉え直し、特に音声言語としての「ことば」への関心を深める。また、コラム等の作成を通して、的確に表現する力をつける。</p> <p>2 学期：自己の「想」を論理的に表現するために、様々な資料を解読して収集する作業を行った上で、論理が明快な小論文を仕上げる。</p> <p>3 学期：表現の技術と人間のコミュニケーションの行為について自分の考えをまとめることができる。</p>
----------	---

使用教材等	<p>○国語表現（教育出版）</p> <p>○パソコン（インターネット活用による資料検索等）</p>
-------	--

各学期のテスト・課題・提出物等	1 学期	テスト	「ことばに変える」～「ことばと人間」の演習
		課題	400字程度のコラム作成・(川柳・俳句・短歌) 創作
		提出物	川柳・俳句・短歌をそれぞれ2作品
	2 学期	テスト	「小論文・レポートを書く」の演習（小論文作成等による）
		課題	800字程度の小論文・レポート
	3 学期	テスト	「自己アピール文」「ポップ作り」（本の紹介による）
課題		800字程度の自己アピール文	
	提出物	好きな本の紹介ポップ1作品	

留意事項	表現がともなう活動が主となるため、その分他者への配慮が大変大切であることを認識させる
------	--

1 目 標

2 内 容

次の事項について指導する。

- ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- イ 情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。
- ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。
- エ 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。
- オ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。

3 内容の取扱い

- (1) 話すこと・聞くこと及び書くことの指導は、相互の関連を図りながら効果的に行うようにし、授業時数は一方に偏らないようにする。
- (2) 内容のウについては、発声の仕方、話す速度、文章の形式なども扱うようにする。
- (3) 内容のオについては、古典の表現法、語句、語彙なども関連的に扱うようにする。また、現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割について考えさせるようにする。
- (4) 指導に当たっては、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにするよう留意する。
- (5) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。
 - ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。
 - イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。
 - ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。
 - エ 身近にある様々な表現を集めその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。
- (6) 教材は、特に、論理的思考力を伸ばす学習活動に役立つもの、情報を活用して表現する学習活動に役立つもの、歴史的、国際的な視野から現代の国語を考える学習活動に役立つものを取り上げるようにする。

第2 国語表現Ⅱ

1 目 標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2 内 容

1の目標に基づき、「国語表現Ⅰ」の内容に示す事項について指導する。

3 内容の取扱い

- (1) 「国語表現Ⅰ」との関連を重視しながら、「国語表現Ⅰ」の内容に更に習熟させ、話すこと・聞くこと及び書くことの一層高めるよう指導するようにする。その際、「国語表現Ⅰ」の3の内容の取扱いの(2)から(6)までと同様に取り扱うものとする。
- (2) 生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる。
- (3) 教材は、「国語表現Ⅰ」の教材の程度を高めたもので、生徒の発達段階に即した適切なものを取り上げるようにする。

【生きる力とは】

- (1) 自分で課題を見つけ、自ら学び自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力。
- (2) 自らを律しつつ、他人とともに協調し、他人を思いやる心や感動する心など、豊かな人間性。
- (3) たくましく生きるための健康や体力。

【今回の学習指導要領の眼目】

今回の学習指導要領の改訂は、完全週五日制を前提として、授業時数の縮減、学習内容の厳選、「総合的な学習の時間」の導入などが特徴ですが、教育課程の改善のねらいは次の4点にあると考えられます。

- (1) 豊かな人間性や社会性、国際社会に生きる日本人としての自覚を育成すること。
- (2) 自ら学び、自ら考える力を育成すること。
- (3) ゆとりのある教育活動を展開する中で、基礎・基本の確実な定着を図り、個性を生かす教育を充実すること。
- (4) 各学校が創意工夫を生かし、特色ある学校作りを進めること。
(教育課程審議会答申)

【新学習指導要領国語科の改訂の要点】

今回の学習指導要領の国語科の改善の要点は、言語の教育としての立場を重視し、国語に対する関心を高め国語を尊重する態度を育てるとともに、豊かな言語感覚を養い、互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成することに重点を置いて内容の改善を図る。

- ア. 互いの立場や考え方を尊重して言葉で伝え合う力を育成することを重視。
- イ. 社会人として必要とされる言語能力を確実に育成することを重視。
特に自分の考えを持ち、論理的に意見を述べる能力、目的や場面に応じて適切に表現する能力、目的に応じて的確に読みとる能力や読書に親しむ態度を育てることを重視。
- ウ. 文学的な文章の読解に偏らず、様々な文章を読んだり、生涯にわたって古典に親しむ態度を育てたりすることを重視。
(教育課程審議会答申)

【新学習指導要領の学習領域】

3つの領域の指導する際の重点目標は以下の通りです。

「話すこと・

「聞くこと」 論理的に意見を述べたり、相手の立場や考えを尊重して話し合ったりする態度や能力の育成を重視。

「書くこと」 目的や場面などに応じて適切に表現する能力を重視。

「読むこと」 目的に応じて的確に読みとる能力や、読書に親しむ態度の育成を重視。

「言語事項」 各領域の学習に役立てるよう様々な目的や場に応じた話し合いや言葉遣い、文や文章の組み立てなどの内容を重点的に取り上げるとともに、国語の成り立ちや特質、言語の役割等について基本的な理解ができるようにする。

【各科目の相互関係】

前回と今回の指導要領での国語科の科目構成の違いを示します。

※ 現行は国語Ⅰのみ必修。

※ 改訂後は国語表現Ⅰ又は国語総合のどちらか一方を履修すれば良い選択方式。

(選択必修・・・複数科目のうち、どれか1科目を必修で選択しなければならないことを言う)

各科目の内容は、次のように捉えられます。

国語総合 3領域1事項をカバーする総合科目。

国語総合の学習目標は、そのまま国語科の目標となっています。(国語表現Ⅰとどちらかを選ぶ選択必修科目)

国語表現Ⅰ 国語総合の3領域のうちの2つの領域、「話すこと、聞くこと」「書くこと」の領域を独立させたもの。(国語総合とどちらかを選ぶ選択必修科目)

国語表現Ⅱ 国語表現Ⅰの内容を高めたもの。

「話すこと・聞くこと」または「書くこと」のどちらかに重点を置いて指導することができる。

現代文 国語総合の「読むこと」の領域で現代文(近代以降の文章)分野を独立、発展させたもの。

古典 国語総合の「読むこと」の領域で、古典(古文・漢文)の分野を独立、発展させたもの。

古典講読 国語総合の「読むこと」の領域で、古典に親しむ態度を養う古典(古文・漢文)の分野を独立させたもの。

前回の学習指導要領でも表現学習の重視、音声言語教育の大切さが訴えられましたが、学校・教場サイドでは、その表現学習の指導は必ずしも十全とは言えない現状にあります。その現状を打破しようとして、今回の学習指導要領では、3領域の調和的指導が強く打ち出されています。つまり「話すこと・聞くこと」「書くこと」を以前より強化しています。そして具体的に教室でこれらの学習がなされるように、その領域について学習活動が明記され、時間の配分も記されました。例えば、国語総合の「話すこと・聞くこと」では、15時間程度を配分し、

ア. 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。

イ. 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。

ウ. 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。

とあります。(学習指導要領 P18)
また、「書くこと」では30時間程度を配分し、

- ア. 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。
- イ. 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。
- ウ. 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。

また、現行の検定基準にありました「音声言語及び作文に関するものについては簡単な例示にとどめる程度でさし支えないこと」という一項が削除されました。従って教室では決められた時間は必ず「話すこと・聞くこと」「書くこと」の指導をしなければならないわけですが、「読むこと」については残りの95時間が当てられるわけですが、

- ア. 文章に表れたものの見方や考え方などを読みとり、それらについて話し合うこと。
 - イ. 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。
 - ウ. 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。
- とあり、単に教材を読み解き、理解するだけではすまないこととなります。

第2章 普通教育に関する各教科

第1節 国 語

第1款 目 標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

第2款 各 科 目

第1 国語表現 I

1 目 標

国語で適切に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2 内 容

次の事項について指導する。

- ア 自分の考えをもって論理的に意見を述べたり、相手の考えを尊重して話し合ったりすること。
- イ 情報を収集、整理し、正確かつ簡潔に伝える文章にまとめること。
- ウ 目的や場に応じて、言葉遣いや文体など表現を工夫して話したり書いたりすること。
- エ 様々な表現についてその効果を吟味し、自分の表現や推敲に役立てること。
- オ 国語の表現の特色、語句や語彙の成り立ち及び言語の役割について理解を深めること。

3 内容の取扱い

(1) 話すこと・聞くこと及び書くことの指導は、相互の関連を図りながら効果的に行うようにし、授業時数は一方に偏らないようにする。

- (2) 内容のウについては、発声の仕方、話す速度、文章の形式なども扱うようにする。
- (3) 内容のオについては、古典の表現法、語句、語彙なども関連的に扱うようにする。また、現代社会における言語生活の在り方や言語表現の役割について考えさせるようにする。
- (4) 指導に当たっては、常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようにするよう留意する。
- (5) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。
 - ア 自分の考えを明確にして、スピーチ、発表、討論などを行うこと。
 - イ 観察したことや調査したことを記録したり、まとめて報告したりすること。
 - ウ 相手や目的に応じて、案内、紹介、連絡などのための話をしたり文章を書いたりすること。
 - エ 身近にある様々な表現を集めその効果などについて考えたり、生徒の表現活動について自己評価や相互評価を行ったりすること。
- (6) 教材は、特に、論理的思考力を伸ばす学習活動に役立つもの、情報を活用して表現する学習活動に役立つもの、歴史的、国際的な視野から現代の国語を考える学習活動に役立つものを取り上げるようにする。

第2 国語表現Ⅱ

1 目 標

国語で適切かつ効果的に表現する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし言語感覚を磨き、進んで表現することによって社会生活を充実させる態度を育てる。

2 内 容

1の目標に基づき、「国語表現Ⅰ」の内容に示す事項について指導する。

3 内容の取扱い

- (1) 「国語表現Ⅰ」との関連を重視しながら、「国語表現Ⅰ」の内容に更に習熟させ、話すこと・聞くこと及び書くこと的能力を一層高めるよう指導するようにする。その際、「国語表現Ⅰ」の3の内容の取扱いの(2)から(6)までと同様に取り扱うものとする。
- (2) 生徒の実態等に応じて、話すこと・聞くこと又は書くことのいずれかに重点を置いて指導することができる。
- (3) 教材は、「国語表現Ⅰ」の教材の程度を高めたもので、生徒の発達段階に即した適切なものを取り上げるようにする。

第3 国語総合

1 目 標

国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨き、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

2 内 容

A 話すこと・聞くこと

次の事項について指導する。

- ア 様々な問題について自分の考えをもち、筋道を立てて意見を述べること。
- イ 目的や場に応じて、効果的に話したり的確に聞き取ったりすること。
- ウ 課題を解決したり考えを深めたりするために、相手の立場や考えを尊重して話し合うこと。

B 書くこと

次の事項について指導する。

- ア 相手や目的に応じて題材を選び、効果的な表現を考えて書くこと。
- イ 論理的な構成を工夫して、自分の考えを文章にまとめること。
- ウ 優れた表現に接してその条件を考え、自分の表現に役立てること。

C 読むこと

次の事項について指導する。

- ア 文章の内容を叙述に即して的確に読み取ったり、必要に応じて要約したりすること。
- イ 文章を読んで、構成を確かめたり表現の特色をとらえたりすること。
- ウ 文章に描かれた人物、情景、心情などを表現に即して読み味わうこと。
- エ 様々な文章を読んで、ものの見方、感じ方、考え方を広げたり深めたりすること。

〔言語事項〕

話すこと・聞くこと、書くこと及び読むことの指導を通して、次の事項について指導する。

- ア 目的や場に応じた話し方や言葉遣いなどを身に付けること。
- イ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにすること。
- ウ 常用漢字の読みに慣れ、主な常用漢字が書けるようになること。
- エ 文語のきまり、訓読のきまりなどを理解すること。
- オ 国語の成り立ちや特質、言語の役割などを理解すること。

3 内容の取扱い

(1) 総合的な言語能力を養うため、内容のA、B、C及び〔言語事項〕について相互に密接な関連を図りながら効果的に指導するようにする。

(2) 内容のAに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 話すこと・聞くことを主とする指導には15単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導を行うこと。
- イ 話をよく聞き取る能力や態度を身に付けさせること。
- ウ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。
 - (ア) 話題を選んで、スピーチや説明などを行うこと。
 - (イ) 情報を収集し活用して、報告や発表などを行うこと。
 - (ウ) 課題について調べたり考えたりしたことを基にして、話し合いや討論などを行うこと。

(3) 内容のBに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 書くことを主とする指導には30単位時間程度を配当するものとし、計画的に指導を行うこと。
- イ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。
 - (ア) 題材を選んで考えをまとめ、書く順序を工夫して説明や意見などを書くこと。
 - (イ) 相手や目的に応じて適切な語句を用い、手紙や通知などを書くこと。
 - (ウ) 本を読んでその紹介を書いたり、課題について収集した情報を整理して記録や報告などを書いたりすること。

(4) 内容のCに関する指導については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 古典と近代以降の文章との授業時数の割合は、おおむね同等とすることを目安として、生徒の実態に応じて適切に定めること。なお、古典における古文と漢文との割合は、一方に偏らないようにすること。
- イ 文章を読み深めるため、音読や朗読などを取り入れること。
- ウ 読書力を伸ばし、読書の習慣を養うこと。
- エ 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにすること。
 - (ア) 文章に表れたものの見方や考え方などを読み取り、それらについて話し合うこと。
 - (イ) 考えを広げるため、様々な古典や現代の文章を読み比べること。
 - (ウ) 課題に応じて必要な情報を読み取り、まとめて発表すること。

(5) 内容の〔言語事項〕については、次の事項に配慮するものとする。

- ア 中学校の指導の上に立って、内容のA、B及びCの指導の中で深めること。
- イ エについては、読むことの指導に即して行う程度とすること。なお、口語のきまり、言葉遣い、敬語の用法などについても、必要に応じて扱うこと。

(6) 教材については、次の事項に留意するものとする。

- ア 教材は、話すこと・聞くこと、書くこと及び読むこと的能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度を育てることをねらいとし、生徒の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、上記(2)のウ、(3)のイ及び(4)のエに掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
- イ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。
 - (ア) 言語文化に対する関心や理解を深め、国語を尊重する態度を育てるのに役立つこと。
 - (イ) 日常の言葉遣いなど言語生活に関心を持ち、伝え合う力を高めるのに役立つこと。

- (ウ) 思考力を伸ばし心情を豊かにし、言語感覚を磨くのに役立つこと。
- (エ) 情報を活用して、公正かつ適切に判断する能力や創造的精神を養うのに役立つこと。
- (オ) 科学的、論理的な見方や考え方を養い、視野を広げるのに役立つこと。
- (カ) 生活や人生について考えを深め、人間性を豊かにし、たくましく生きる意志を培うのに役立つこと。
- (キ) 人間、社会、自然などに広く目を向け、考えを深めるのに役立つこと。
- (ク) 我が国の文化と伝統に対する関心や理解を深め、それらを尊重する態度を育てるのに役立つこと。
- (ケ) 広い視野から国際理解を深め、日本人としての自覚をもち、国際協調の精神を高めるのに役立つこと。

第4 現代文

1 目 標

近代以降の様々な文章を読む能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで表現し読書することによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 内 容

次の事項について指導する。

- ア 論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえること。
- イ 文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わうこと。
- ウ 様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深めたり発展させたりすること。
- エ 語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに、文体や修辞などの表現上の特色をとらえること。
- オ 目的や課題に応じて様々な情報を収集し活用して、進んで表現すること。

3 内容の取扱い

- (1) 話すこと・聞くこと及び書くことの言語活動を効果的に取り入れるようにする。
- (2) 生徒の読書意欲を喚起し、読書力を高めるよう配慮するものとする。
- (3) 近代の文章や文学の変遷については、文章を読むための参考になる程度とする。
- (4) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。
- ア 論理的な文章を読んで、書き手の考えやその展開の仕方などについて意見を書くこと。
- イ 文学的な文章を読んで、人物の生き方やその表現の仕方などについて話し合うこと。
- ウ 文章の理解を深め、興味・関心を広げるために、関連する文章を読んだり創作的な活動を行ったりすること。
- エ 自分で設定した課題を探究し、その成果を発表したり報告書などにまとめたりすること。
- (5) 教材は、近代以降の様々な種類の文章とする。その際、現代の社会生活で必要となる実用的な文章も取り上げるようにする。なお、翻訳の文章や近代以降の文語文も含めることができる。

第5 古典

1 目 標

古典としての古文と漢文を読む能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。

2 内 容

次の事項について指導する。

- ア 古文や漢文に用いられている語句の意味、用法及び文の構造を理解すること。
- イ 文章や作品の内容を構成や展開に即して的確にとらえること。
- ウ 文章や作品に表れた人間、社会、自然などに対する思想や感情を読み取り、ものの見方、感じ方、考え方を豊かにすること。

エ 文章や作品の表現上の特色を理解し、優れた表現に親しむこと。

オ 古典を読んで、日本文化の特質や日本文化と中国文化の関係について考えること。

3 内容の取扱い

(1) 古文及び漢文の両方を取り上げるものとし、一方に偏らないようにする。

(2) 話すこと・聞くこと及び書くことの言語活動を効果的に取り入れるようにする。

(3) 文語文法の指導は読むことの学習に即して行い、必要に応じてある程度まとまった学習もできるようにする。

(4) 指導に当たっては、例えば次のような言語活動を通して行うようにする。

ア 古文や漢文の調子などを味わいながら、音読、朗読、暗唱をすること。

イ 国語の変遷などについて関心を深めるため、辞書などを用いて古典の言葉と現代の言葉とを比較対照すること。

ウ 古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて話し合うこと。

エ 古典を読んで関心をもったことなどについて調べ、文章にまとめること。

(5) 教材については、次の事項に留意するものとする。

ア 教材は、様々な文章や作品、文種や形態などについて、親しみやすく基本的なものをできるだけ精選し、長短や難易を考慮して適当な部分を取り上げること。また、上記(4)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。

イ 教材は、次のような観点に配慮して取り上げること。

(ア) 古典を進んで学習する意欲や態度を養うのに役立つこと。

(イ) 人間、社会、自然などに対する様々な時代の人々のものの見方、感じ方、考え方について理解を深めるのに役立つこと。

(ウ) 様々な時代の人々の生き方について考えたり、我が国の文化と伝統について理解を深めたりするのに役立つこと。

(エ) 古典を読むのに必要な知識を身に付けるのに役立つこと。

(オ) 言語感覚を豊かにするのに役立つこと。

(カ) 中国など外国の文化との関係について理解を深めるのに役立つこと。

ウ 教材には、日本漢文も含めるようにすること。また、必要に応じて近代以降の文語文や漢詩文などを用いることができること。

エ 教材については、表記を工夫し、注釈、傍注、解説などを適切に用い、特に漢文については訓点を付け、時には書き下し文を用いるなど理解しやすいようにすること。